

しろや！ 広島城

Let's know Hiroshima Castle.

No. 4

城下町は消えなかったの？

みんな知った？

ぼくは広島町って60年前に原爆が落ちた時、全部こわれて、戦争が終わってから新しく造られたんだと思った。

でもじいちゃんが言うんだ。

「広史、知らんのか、城下町だった『あと』があちこちに残ってるよ」

え〜！ みんな知った？ 広島町が江戸時代には城下町だったってこと。じいちゃんが言うには城下町って城の周りにつくられた町のことらしいんだけど、ぼく初めて聞いたよ。城下町ってどんな町なんだろう？

それにさ、城下町だったのは何百年か前でしょ？ そんなむかしの『あと』ってほんとに今の町に残っているのかな？ もし消えずに残っているとしたら、それってすごいことだね。

そこで、ぼくはじいちゃんといっしょに、この夏調べてみることにしたんだ。でも、まてよ、どうやったら調べられるのかなあ？



ひろし 広史(10)

好奇心いっぱいの
小学校5年生。



ひろし 広史くんのじいちゃん(70)

広島町のことを良く知っている。被爆した時、広史くんと同じ10歳だった。

ひろし、城のことと言えば広島城じゃろ。

ちょうど広島城で「城下町は消えなかったの？」という展示をやとるんじゃ。きっと江戸時代の城下町のこととか、城下町が今どうなっているのかとか、いろいろとわかると思うんよ。

じいちゃんといっしょに行ってみようや。

企画展「城下町は消えなかったの？」は7月23日(土)から9月11日(日)まで、天守閣の第2層と4層で開催します。広史くんと「じいちゃん」がみんなを案内するよ！

ちょっとだけ展示紹介…

「広島城下絵屏風」には広島城下町の様子が描かれているんだけど、右の絵はその一部分。当時、もっともにぎやかだったメインストリートに並ぶお店の様子が描かれています。ところで、この道、実は今も残っているんですよ。いったいどの道だと思う？ 答えは広史くんといっしょに展示会場で確認してね。ヒントは…今もお店がたくさん並んでいるよ！



★★企画展の開催中、毎週日曜日の午後2時から、展示ガイドを学芸員が行います。★★

ひきみ どう えびすどう
引御堂と胡堂

江戸時代の広島城下町に、東引御堂町・西引御堂町という町がありました。東引御堂町は現在の中区胡町・えびす かなやま ほりかわ銀山町・堀川町一帯を、西引御堂町は現在の中区十日市町・とお かいち ひろせ広瀬町一帯を指す町名で、前者は昭和8年（1933）まで、後者は昭和40年（1965）まで町名として残っていました。江戸時代後期に広島藩が編纂した「知新集」という記録によると、慶長8年（1603）福島氏の時代に、西引御堂町から分離して東引御堂町と胡町（現在の中区胡町）が城下南東に成立して市の町となつたとされ、東西の引御堂町はもともと西引御堂町の位置に一つの町として存在したことがわかります。

一方、今日、広島にぎの秋の風物詩として多くの人々で賑わう「えびす講」で知られる中区胡町の胡子神社は、江戸時代には西光寺という寺の中にある神社で、胡堂と呼ばれました。「知新集」に載せられている西光寺の由来によると、西光寺と胡堂は、毛利氏の時代、高田郡吉田（現在の安芸高田市吉田町）から高宮郡古市（現在の安佐南区古市。江戸時代の村名は中筋古市村）へ、その後さらに城下の西引御堂町へ移転し、福島氏の時代に胡町に移動したとされます。また、西光寺は町年寄の指示のもと僧が管理した寺であるとされ、町人の共同管理によって運営

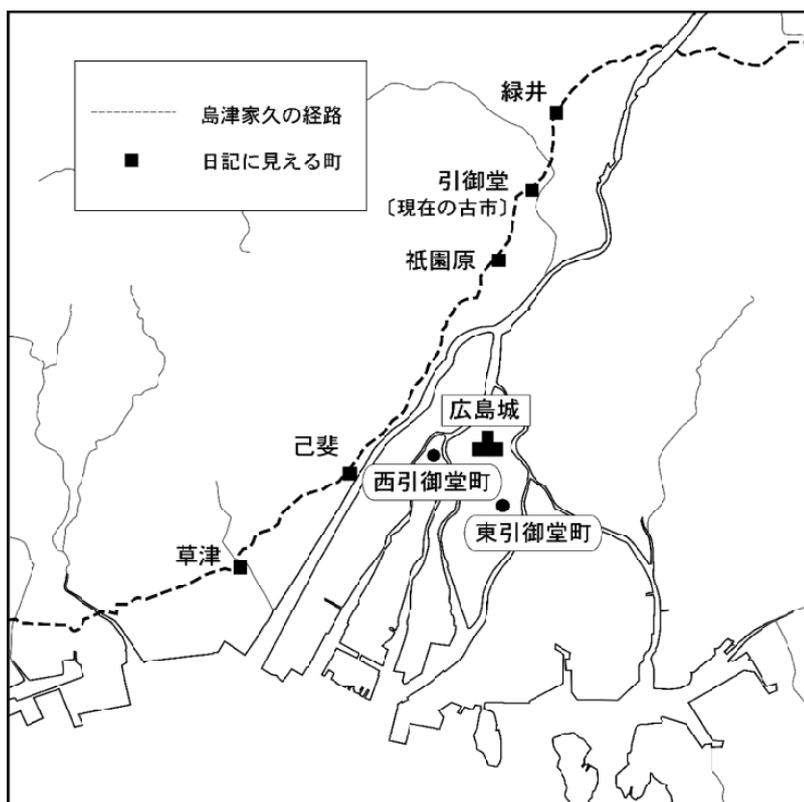
された寺という点が特徴として挙げられます。

胡、すなわちえびす様を祀る神社に関しては、中世において市が立てられる際、市の商工業者等によって市神として勧請かんじょうされることが多く、当時の人々にとって市とは神を招いた特別な場であり、市神を中心とした一定の区域が市の範囲になったことなどが指摘されています。したがって、新たに市を立てるには市神が必要となる場合があり、東引御堂町・胡町の場合も、新たな市の町を成立させるにあたり、町人が西引御堂町から西光寺・胡堂を移転したことが考えられます。江戸時代、西光寺・胡堂が胡町の町年寄によって管理されたことも、胡堂が市神であった点に結びつけると素直に理解できそうです。

ということは、慶長8年以前、西引御堂町に西光寺・胡堂が存在した時期には、同町において市が立てられていたことが考えられます。また、さらに遡って、古市・吉田の場合も、同様の想定が成り立つかもしれません。

では、そもそも西光寺の由来については、どこまで信頼が置けるものなのでしょうか。この問題について考えるため、ある戦国武将が書き残した旅日記をひも解いてみましょう。

その武将の名前は島津家久、薩摩の国（現在の鹿児島県）の戦国大名島津義久よしひさの弟です。家久は、天正3年（1575）、にお伊勢参りをしており、その道中に見聞した様々なことを日記（「中書家久公御上京日記」）に残しています。この日記によると、家久は海沿いに草津・己斐（共に現在の西区）を経由し、「祇園原」→「ひきみたう（引御堂）」→「ミとり（緑井）」という町を通過しています。ここに見られる引御堂は、現在の安佐南区古市に比定され、戦国時代末同地が引御堂と呼ばれていたことがわかります。この古市に比定される引御堂こそ、城下の東西両引御堂町の町名の由来となつたと考えられ、西光寺の由来が述べる、古市→西引御堂町という変遷へんせんに関しては、ある程度の信頼を置いてよさそうです。この他、毛利氏が広島築城以前に



島津家久の経路と東西両引御堂町の位置

実施した検地^{けんち}の結果が示された「八カ国御時代分限帳^{はち こくおんじだいぶんげん ちょう}」にも「引御堂」という地名が見られ、そこには目代^{もくだい}が十三人いたことが確認できます。目代とは毛利氏によって任命された市場をつかさどる役人のことです。残念ながら、これを城下の西引御堂町、あるいは古市に比定される引御堂、どちらと考えてよいのか、まだ断定できません。いずれにせよ、目代が十三人も存在した「引御堂」は、毛利氏において重要な市の一つであったと言えます。

なお、西光寺の由来に見られる、吉田→古市という変遷については、これを裏付ける史料は見当たりません。戦国時代末頃、現在の古市を指す地名で

あった引御堂が、吉田から引いて（引っ越して）きたお堂（胡堂）にちなんで名付けられた地名と考えるのは、想像を膨らませ過ぎでしょうか？

（篠原）

参考文献

「知新集」広島市『新修広島市史』第6巻資料編その一、1959

「中書家久公御上京日記」広島県編『広島県史』古代中世資料I、1974

岸浩編著『資料毛利氏八箇国御時代分限帳』、マツノ書店、1987

笹本正治「市・宿・町」『岩波講座日本通史 中世3』岩波書店、1994

おしえて！ 広島城博士 3



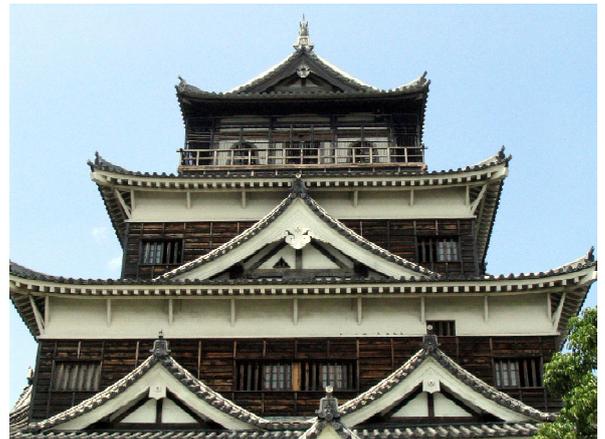
Q. 天守閣^{てんしゅかく}のかべは、なんで白と黒にわかれているの？

A. みんなは広島城の天守閣を見たことがあるかな？
ないという人は早く見にくるんじゃ！

天守閣を外からよく見てごらん。それぞれの階のかべは、上のほうが白くて、下のほうが黒っぽい板になっていることに気がつくじゃろう。上の白いかべは、かべの一番表側に「しっくい」というものをぬったものなんじゃ。「しっくい」というのはな、石灰岩^{せっかいがん}という石を主な原料にして、のりや植物のせんいなんかをまぜて作られたかべの材料なんじゃ。お寺や古い家の蔵^{くら}で「しっくい」をぬったかべをみんなも見たことがあるかもしれんぞ。

では、なんで広島城の天守閣はかべを全部「しっくい」でぬってないんじゃろう？

それはな、「しっくい」は風雨に弱く、年月がたつとはがれ落ちたりして、ぬりなおさなくてはならないということからなんじゃ。何度も「しっくい」をぬりなおすとお金がかかるじゃろう。だから屋根で雨が



広島城天守閣のかべ

さけられるかべの上のほうだけ「しっくい」をぬって、雨の当たる下のほうは板をはっているんじゃ。ちなみに、こんなかべのことを難しい言葉で「下見板張^{したみいたばり}」のかべとよぶ。これは、下のほうに板をはっているという意味じゃ。天正17年(1589)に広島城をつくる時、モデルにした豊臣秀吉の大坂城天守閣もこの「下見板張」のかべだったんじゃ(ただし大坂城天守閣の「しっくい」は黒っぽい色だったとも考えられておる)。

「下見板張」とは違って、兵庫県にある世界遺産の姫路城^{ひめじ}は、天守閣群のかべ全部に「しっくい」がぬられ、白く輝いておる。「白鷺城」というニックネームがあるほどじゃ。わしも姫路城は美しいと思うが、広島城の「下見板張」のかべも白黒2色のシックな美しさじゃと思うぞ。みんなはどうか？

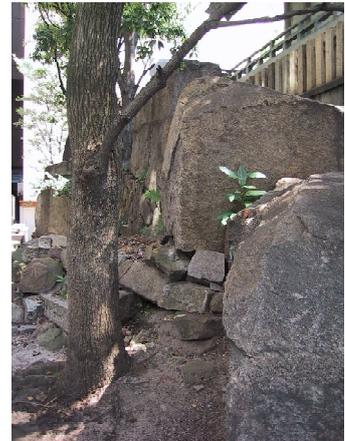
（田村）

広島城下町たんけん隊！

隊員募集！！



京口門のバス停（中区八丁堀）



しらかみしゃ がんしょう
白神社の岩礁（中区中町）

みんな知っているかな？ このうちいくつが本当のことだろう？

- 1 紙屋町から八丁堀までの電車通りは、昔は広島城の堀だった。
- 2 バス停に今も残る京口門とは、広島城の門があった場所で、京口の「京」は京都のことだ。
- 3 本通り商店街には、江戸時代から400年近く続くお店がある。
- 4 広島城が造られた頃には、今の平和大通り付近まで海があって、波が打ち寄せていた岩が残っている。

答えは、全部本当のことだ！ びっくりした？

もっとくわしいことを知りたかったら、実際に歩いてみて、城下町をたんけんしてみよう。

きっと新しい発見があるよ。ぜひ応募してね。

実施日：平成17年7月28日（木） 9時から11時50分まで

（雨天の場合は翌日に順延）

内容：広島城天守閣で企画展「城下町は消えなかったの？」を見学した後、広島市中心部まで歩きながら、今に残る城下町の『あと』を、学芸員といっしょに見学します。

対象：小学校4～6年生・中学生（小学生は保護者同伴）

参加費：参加する人一人あたり50円（保険代など）

申し込み：7月15日（金）朝9時から電話（221-7512）で受け付けます。

①氏名、②連絡先（電話番号・住所）、③学年、をお伝え下さい。

定員：10組（先着順）



個人情報の
取り扱いに
ついて

今回の募集で得た個人情報は、当館にて適正に管理し、本事業の目的にのみ使用します。また、本事業の緊急連絡などに使用し、終了後はすみやかに破棄します。

しろや
！
広島城

編集・発行

財団法人広島市文化財団 広島城

730-0011 広島市中区基町2-1-1

電話：082-221-7512

FAX：082-221-7519

平成17年7月10日

広島城利用案内

開館時間：9:00～17:30（4月～9月）

9:00～16:30（10月～3月）

入館料：大人360円（280円）

小人180円（100円）

（ ）内は30名以上の団体料金

休館日：12月29日～1月2日